

高尾遺跡

埋藏文化財包藏地緊急試掘調査報告書

地方特定道路整備事業
—伊那北停車場山寺上村線—

2003

伊那市教育委員会

伊那市建設部建設課

あ い さ つ

近頃の傾向として住民間に文化財保護思想の高揚が強く叫ばれ続いている。文化財とは一口に言っても漠然としており、何が文化財であるかを注視してみる必要があろう。文化財とは各種多様であるが、その主なるものは石造文化財、民俗文化財、民俗芸能、歴史的文化財、史跡名勝・天然記念物等である。遺跡は広義的に埋蔵文化財の範疇に属している。

ここに報告する高尾遺跡は平成15年4月に開業する伊那中央総合病院に至るまでの道路拡幅事業に先立って緊急試掘調査を実施したわけであります。極めて狭小の調査範囲であったために、この報告書に掲載したほんのわずかな成果を得ることが出来た程度であります。

試掘調査は晴天の続いた初夏に近い時期に実施され、今回、調査報告書の刊行に至ったわけであります。

最後に、快く調査の進行に御協力を頂いた伊那市建設部職員一同並びに地権者、連日にわたり熱心に調査にあたられた調査員、作業員の皆様に対し、心より感謝の意を申し上げる次第であります。

平成15年2月10日

長野県伊那市教育委員会

教育長 保 科 恭 治

目 次

あいさつ

目 次

挿図目次

図版目次

第Ⅰ章 高尾遺跡とその環境	3
第1節 位置と地形・地質	3
第2節 周辺の遺跡との概要	4
第Ⅱ章 試掘調査の経過	6
第1節 試掘調査に至るまでの経過	6
第2節 調査の組織	6
第3節 試掘調査日誌	7
第Ⅲ章 試掘調査	8
第1節 調査の概要	9
第2節 遺 物	9
第Ⅳ章 所 見	10

挿 図 目 次

第1図 伊那西部地区遺跡分布図	5
第2図 地形及びトレーンチ配置図	8
第3図 石器実測図	9

図 版 目 次

図版1 遺跡遠景
図版2 発掘調査状況

第Ⅰ章 高尾遺跡とその環境

第1節 位置と地形・地質

まず、最初に、高尾遺跡までに至る最短距離の道順を目に浮かべてみよう。JR飯田線伊那北駅で降車し、この駅前に軒先を連らねている山寺商店街を両側に見ながら、駅前西側近くの信号機の設置された三叉路を西方に向かう。この地点から急傾斜の登り坂が延々と続く、登り坂が緩傾斜になりだす所の右側が長野県伊那北高等学校への入り口であり、矢印のついた案内板が建てられている。この登り坂一帯は現在、伊那中央総合病院への表玄関的な道路の役割を果たす目的で、大規模な道路拡幅改良が実施されている。

さらに西へ進むとやや平坦地が広がりをもち、道路をはさんで発展が著しい山寺区高尾町集落が展開している現状である。今回の試掘調査地点はいわば高尾町集落の入り口付近に該当する。この集落の周縁一体は大正末期に西天竜土地改良事業によって大規模な開発が行われ、西天竜の通水が可能となり、見事な美田が開けている現状である。

伊那市を包含する伊那谷の地形的景観の特徴は東の南アルプス（別称、赤石山脈）、西の中央アルプス（別称、木曾山脈）に挟まれ、天竜川を主流とする造盆地状地形にある。この盆地状地形は南北に袋状の縦谷状を呈し、北の辰野から南の天竜峡まで約60km、幅4~10kmにわたる平坦面を展開している。両アルプスの山裾、山麓に源を発する三峰川など大小様々な小河川が複雑多岐にわたる山麓扇状地面、数段に及ぶ河岸段丘面を形成しながら天竜川に注ぎ込み、いわばこれらは天竜川の支流的存在である。

天竜川を中心にして東側を竜東地区、西側を竜西地区と大別して呼んでいる。高尾遺跡周辺の地形的起因は小沢川によるところが極めて大と想定でき得よう。小沢川は木曾山脈系茶臼山の支流である南沢山と権兵衛峠を境にする経ヶ岳山系の沢水を集めて東流し、伊那市荒井区錦町・坂下区入舟町付近で天竜川と合流する。

次に高尾遺跡周辺の微地形・微地質を見てみると、丘状地形と洞状地形に大別でき、後者の代表として福沢洞があげられる。福沢洞は仁連沢の窪地と烏谷川の窪地が合わさった所から、川の流れに沿って西方から東に向けて幅広く開け、その東端は高尾神社の崖下の南洞まで連続的になっている。湧水が各所にあり、温暖で住み良い場所であった確証として「福」という良い名がつけられている。「福」とは平安末期から発生する仮名的な意義づけが可能である。

前述した伊那北駅から高尾町に登ってくる坂道に沿った凹地を「堂城洞」と呼んでいる。城という名からして、近くに中世城館跡の存在が連想されるが、その点については「第2節 周辺の遺跡との概要」で詳細に述べることにする。

前述した湧水地点について触れてみる。福沢洞の奥深くに仁連沢・福沢・越清水という小さな沢が一続きになっており、ここからの湧水は上水道として高尾町住民の生活を潤している。

さらに、子供たちの飯盒水炊の場として親しまれ、憩の中心地の一つとなっている。

第2節 周辺の遺跡との概要

伊那市地域内で、伊那西部と呼ばれている広範囲の地域があり、その中で、現在確認されている遺跡数は75に達している。これらの分布、立地については「第1図 伊那西部地区遺跡分布図」を参照すれば、ある程度は理解できると思われる。この図を概観すれば遺跡の存在が三分類に大別が可能となる。その一つは山麓扇状地の扇頂部面、扇側部面。もう一つは天竜川の支流である小黒川、小沢川、大清水川、大泉川の両岸の河岸段丘面。さらにもう一つは天竜川の支流、天竜川によっての山麓扇状地末端部面（学名：扇端部面）に形成された河岸段丘面である。

これらの遺跡を垂直分布面で概観すると、標高650m位から950m位に含まれ、パノラマ状的に理解できる。前述した三分類が可能な必須条件はあくまでも水便の問題である。

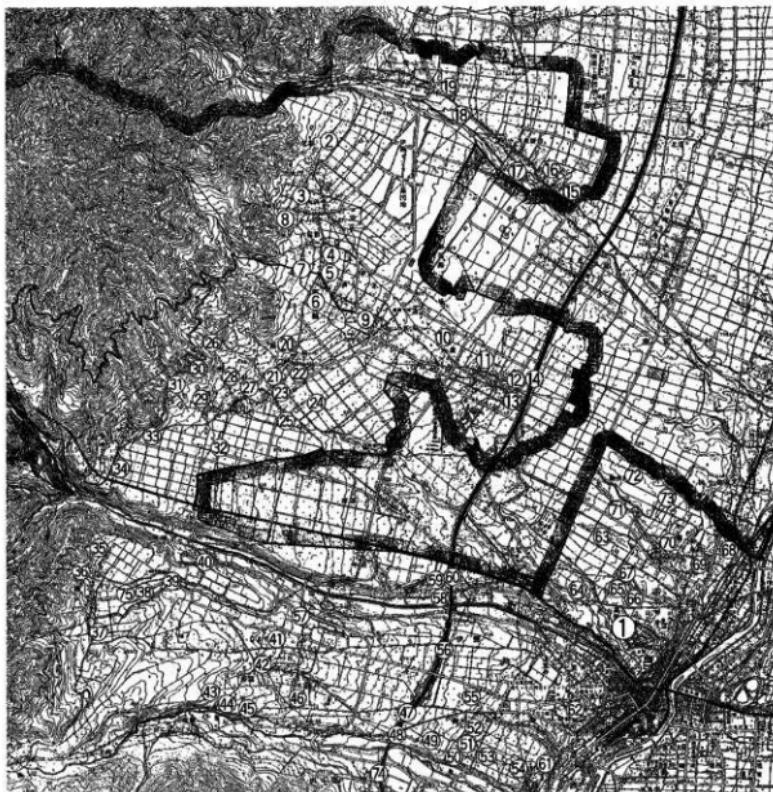
伊那西部地区にある75遺跡の時代的な内訳は旧石器を出すもの6、縄文草創期2、縄文早期3、縄文前期10、縄文中期60、縄文後期6、縄文晩期2、弥生前期1、弥生中期1、弥生後期6、古墳3、奈良・平安時代の土師器を包含するもの26、同じく須恵器を包含するもの29、灰釉陶器を包含するもの21、さらに、綠釉陶器を包含するもの2、中世陶磁器などを包含するもの12、近世として月見松経塚がある。

高尾遺跡はかつて小規模な緊急発掘調査を実施し、縄文前期に関西地方を中心に隆盛した北白川下層式土器片が出土しており、伊那市を代表する縄文前期の遺跡となっている。隣接している石塚遺跡は平成10年～11年にかけて中央病院建設事業に伴って緊急発掘調査が実施され、平安時代の隅丸方形状堅穴住居址が4軒検出され、それらの中から土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製紡錘車1点が出土している。さらに、平成13年緊急地方道路整備事業市道伊那北与地線導入に伴って緊急発掘調査が行われ、縄文中期初頭の堅穴住居址1軒、縄文中期中葉の土坑1基の検出を見た。堂城洞と呼ばれている南側に「狐林城」という城郭があり、東は切り立った深い崖、北と南は深い洞、城の大手は西の原に配備し、空堀、土星を構築してある。

山麓扇状地帯遺跡群 この分類の仕方は山麓扇状地の扇頂部から扇測部周辺に展開している遺跡群を指して、このように呼ぶことにした。この一帯は山峰部分が終わって、水便、日当りがともに良好で、居住するには好適地に該当する。

天竜川支流両岸遺跡群 この分類の仕方は天竜川に注ぎ込む小黒川、小沢川、大清水川、大泉川などの両岸に形成された小規模の河岸段丘面、または川に面した傾斜面に立地している遺跡群を指しているので、このように呼ぶことにした。この一帯のどこかに古代「令制東山道」の渡河点が存在していたわけであるが、明確な地点は把握されていない、推定での議論を呼んでいる。

河岸段丘遺跡群 経ヶ岳山麓より東へ向かって緩傾斜に広く展開している複合扇状地の扇端部、つまり、河岸段丘面形成に天竜川が大きく左右した位置に点在している遺跡群を指している。この一帯は豊富な湧水があり、養鯉場やワサビ栽培が盛んである。この一帯の西端部に日本地質学会で全国的に有名になった小黒川活断層が南北に細長く帯状に走行している。(飯塚政美)



遺跡の名称

- | | | | | | | | | |
|---------|----------|------|---------|--------|---------|--------|----------|------|
| ①高尾 | ⑪西箕輪幼稚学校 | ⑫火庄 | 1 | ⑬小花岡 | ⑭ますみヶ丘上 | ⑮須坂南古墳 | ⑯ウゲイス原団地 | ⑰清水洞 |
| ②北割 | ⑫猪野神社 | ⑬上戸門 | ⑭中の原 | ⑯船 | ⑰須坂北古墳 | ⑱上の山 | ⑲牧ヶ清田 | |
| ③田代 | ⑬富士塚 | ⑮天庄 | ⑭与地山寺 | ⑯平 | ⑲山の神 | ⑳石塚 | ㉑大山田 | |
| ④古屋敷 | ㉑在在家 | ㉒清烟 | ㉓号地原 | ㉔風平 | ㉕小黒南原 | ㉖鳥居 | ㉗山泉 | |
| ⑤金鋸場 | ㉒高根 | ㉔下の原 | ㉕北方 | ㉖上手原 | ㉗富士塚 | ㉘今城 | ㉙間 | |
| ⑥財木 | ㉒久保 | ㉔河内 | ㉕欠坂 | ㉗煙 | ㉘城 | ㉙樂 | ㉚外 | |
| ㉗鹿島山 | ㉒坂堤 | ㉔高根 | ㉕八人塚 | ㉗城原 | ㉘城原 | ㉙樂 | ㉚外 | |
| ㉘經ヶ岳山麓 | ㉒中道 | ㉔宮坂 | ㉕外のねぐし沢 | ㉗赤坂 | ㉘沢神社 | ㉙園東部 | | |
| ㉙西箕輪小学校 | ㉒桜 | ㉔の内 | ㉕九山清水 | ㉗伊勢並 | ㉘月見松経坂 | ㉙御園南部 | | |
| ㉚大堂西 | ㉒殿屋敷 | ㉔上原 | ㉕穴沢 | ㉗八人塚古墳 | ㉘月見松 | ㉙官ノ前 | | |

第1図 伊那西部地区遺跡分布図 (1: 50,000)

第Ⅱ章 試掘調査の経過

第1節 試掘調査に至るまでの経過

今回、試掘調査の該当地となった高尾遺跡は平成14年度地方特定道路整備事業－伊那北停車場山寺上村線－に伴う緊急試掘調査であり、調査が実施されるまでには各種の保護協議、事務上の手続きが実施され、それらの動きを年月日の順に従って記しておくこととする。

平成13年11月14日、長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事、伊那市教育委員会社会教育課職員、伊那市建設部建設課職員の三者で綿密な保護協議を実施、支障のないように努めた。

平成14年4月3日付けで伊那市長小坂権男と市内遺跡発掘調査団団長御子柴泰正両者間で埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書を締結する。

平成14年5月31日付けで高尾遺跡試掘調査終了報告書を長野県教育委員会教育長に提出する。

平成14年12月12日付けで伊那市長小坂権男と市内遺跡発掘調査団団長御子柴泰正両者間で埋蔵文化財包蔵地発掘調査変更委託契約書を締結する。

第2節 調査の組織

緊急試掘調査に着手する前に次のような組織編成を行い、万全を記した。

伊那市教育委員会

委員長 登内 孝

委員 上島 武留

　伊藤 晴夫

　田畠 幸男

教育長 保科 恭治

教育次長 伊藤 隆

事務局 塚本 哲朗（生涯学習・スポーツ課長）

　布袋 喜代子（副参事・生涯学習・スポーツ課長補佐・女性室長・青少年係長）

　白鳥 今朝昭（生涯学習・スポーツ課長補佐・社会教育係長）

　飯塚 政美（生涯学習・スポーツ課主幹）

　山口 千江美（生涯学習・スポーツ課主査）

　北林 太（　　タ　　）

　唐澤 直樹（　　タ　　）

　田原 節子（　　タ　　）

試掘調査団

団長 御子柴 泰正（長野県考古学会会員）
調査員 飯塚政美（日本考古学协会会员）
タ 本田秀明（長野県考古学会会員）
作業員 城倉三成 織井和美 酒井公士郎 有賀秀子 那須野進 松下未春
小田切守正（敬称略順不同）

第3節 試掘調査日誌

平成14年5月22日(水) 午前中は伊那市考古資料館にて発掘機材、測量機材の点検及び整備を実施して試掘調査に万全を期す。午後、高尾遺跡試掘現場へ機材一式を運搬する。

平成14年5月23日(木) スペースハウス・コンテナハウスを建てる場所を選定し、その場所をバックフォーにて整地を行う。この作業完了後に発掘機材の用途に応じて格納して整理、整頓を行う。午後、東西に長く4本のトレンチ（第1号トレンチ、第2号トレンチ、第3号トレンチ、第4号トレンチとそれぞれ命名）を設定して、掘り進めるが、何の遺構・遺物も発見されなかった。夕方までにはほぼ全掘を終える。この一帯は住居が建てられており、その基礎部分は明瞭であった。

平成14年5月28日(火) 第1号トレンチ～第4号トレンチまで写真撮影、さらに埋め戻しを完了する。前者のトレンチの東側に東西に長く第5号トレンチ、第6号トレンチを設定して掘り進めていき、ほぼ完全に掘り上げる。第5号トレンチの写真撮影終了。

平成14年5月29日(水) 第5号トレンチの埋め戻し、第6号トレンチの写真撮影、さらに同トレンチの埋め戻し作業を順序よく進め、それぞれ終える。引き続いて、東側に第7号トレンチ、第8号トレンチを設定して試掘を進める。

平成14年5月30日(木) 第7号トレンチ、第8号トレンチを掘り進め、写真撮影、埋め戻しを完了する。第1号トレンチ～第8号トレンチの全測図作成。試掘現場の後片付を実施し、午後、発掘機材一式を伊那市考古資料館へ搬入する。本日をもって試掘現場作業を終える。

平成14年11月～平成15年2月 遺物の整理、遺物の実測、図版の作製、写真撮影。

平成15年2月 報告書を刊行し、本事業の完了をみた。

（飯塚政美）

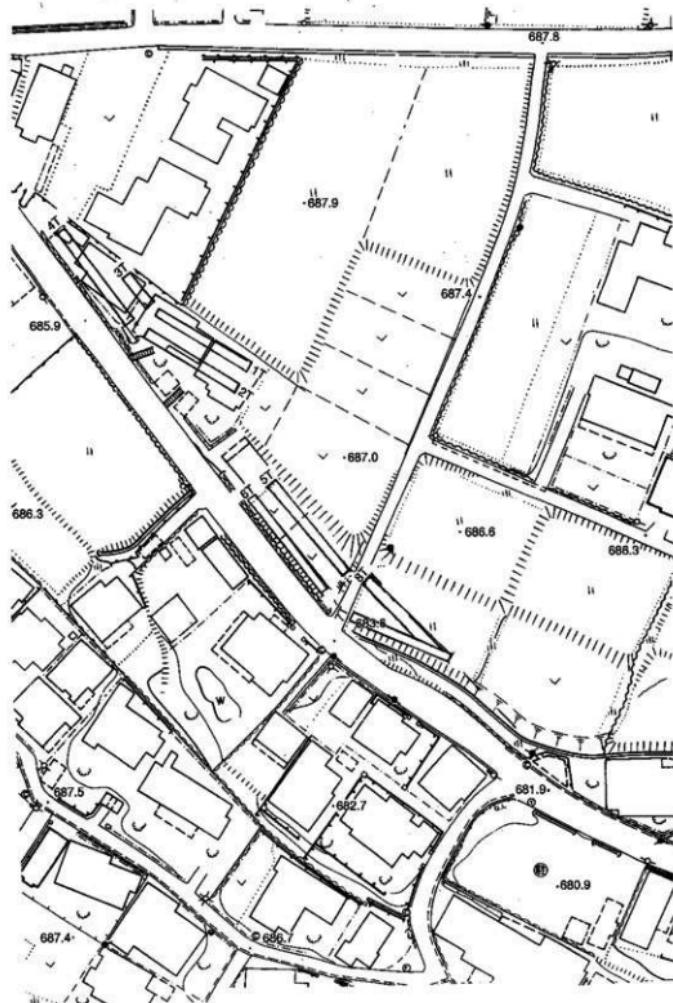


試掘風景



試掘風景

第三章 試掘調査



第2図 地形及びトレンチ配置図 (1 : 1,000)

第1節 調査の概要

高尾遺跡周辺は都市計画用途地域内に指定されており、現況は大部分が一般宅地で、一部は水田や畑に有効的に利用されている。これらに混じって、近年、病院が開設されて、いわば住宅地域へと急激な変貌を遂げつつある。

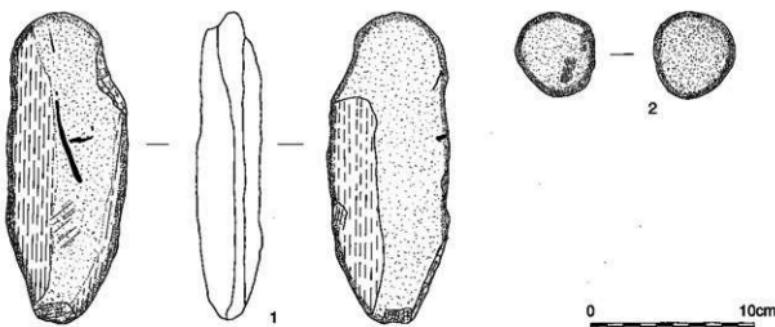
遺跡地の試掘調査地点は一部分が水田下であり、大部分が現住宅地の下であったために試掘調査を実施するに当たっては、当初、宅地造成時に移動した土の状態、特に、切り土、埋土の状態を十分に観察、検討して、現地に重機を入れて調査に踏み切った。実際に掘り下げてみると、宅地造成時に、大部分、土の大きな移動がなされており、遺構の存在はまずのぞめなかつた。水田にいたっても、同様であった。試掘調査結果は、『試掘調査報告書』の通りであり、遺構の検出は何もなく、遺物については第2節で述べる。

第2節 遺 物

第3図に掲載した二点の石器はともに表面採集されたものである。(1)は部分的に敲石と磨石を併用した割合に大型の石器である。先端部と右側の一部分が打ち欠かれた形態を成し、両面とも左側半分が磨かれている。繊粒質の硬砂岩を用いている。(2)は極めて小型の磨石であり、三峰川産の良質の綠泥岩を用いている。

その他、昭和前期頃の陶磁器類の細片が数点表面採集できた。

(飯塚政美)



第3図 石器実測図

第IV章 所 見

高尾遺跡の存在が世に知られるようになったのは上伊那郡宮田村在住本田秀明氏が「伊那市高尾町遺跡A地点の住居址」という題目で『伊那路』昭和49年5月号刊に発表してからである。この報告文によれば、伊那市内では最初の関西地方から渡してきた北白川下層式の住居址の発見が記載されている。

この成果が脳裏から離れずに、試掘調査に取り掛かったために結果的には期待感が大きすぎたのである。西から東への急傾斜の沢が走っており、それに南向きに面したわずかな平坦地が今回の発掘調査地点であった。この地点は住宅地となっており、試掘調査時に判明したのであるが、住宅建設に伴って、かなり下層に至るまで搅乱が浸透していた。いくら搅乱が浸透していても、遺跡の濃密な場所であれば、かなりの遺物が出土しても何も不可思議ではない。つまり、全般的に見て、今回の試掘調査地点は高尾遺跡の散布地と考えざるを得ない。(飯塚政美)

図版



遺跡地を西側より眺む



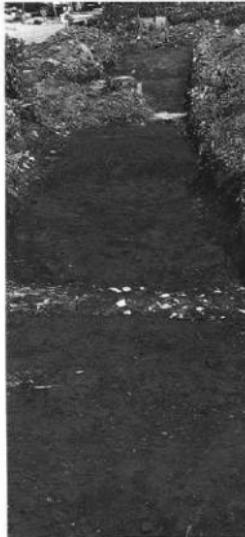
遺跡地を東側より眺む

図版2

発掘調査状況



第1号トレンチ



第2号トレンチ



第3号トレンチ



第4号トレンチ



第5号トレンチ



第6号トレンチ

報告書抄録

ふりがな	たかお						
書名	高尾遺跡						
副書名	地方特定道路整備事業—伊那北停車場山寺上村線—						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号	埋蔵文化財包藏地緊急試掘調査報告書						
編著者名	御子柴泰正 飯塚政美						
編集機関	伊那市教育委員会						
所在地	〒396-8617 長野県伊那市大字伊那部3050番地 TEL0265-78-4111						
発行年月日	西暦2003年2月20日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 °・'	東経 °・'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
たかお 高尾	ながのけん いなし 長野県 伊那市 いな やまとら 伊那山寺	伊那市	44		平成14年 5月22日 ～ 平成14年 5月30日	300	地方特定 道路整備 事業—伊 那北停車 場山寺上 村線—
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高尾	散布地	縄文時代 昭和時代	無し	縄文中期石器 陶磁器	300m ² に及ぶ狭い 範囲の試掘調査であ った。何も、遺構・ 遺物は検出されず、 高尾遺跡の範囲はこ の一帯まで展開して いないことが判明さ れた。いわば散布地 的な存在である。		

高尾遺跡

埋蔵文化財包蔵地緊急試掘調査報告書

地方特定道路整備事業
—伊那北停車場山寺上村線—

平成15年2月18日 印刷

平成15年2月20日 発行

発行所 伊那市教育委員会

印刷所 伊那市 篠小松総合印刷

